

### 西東京市議会公明党

## 新型コロナウイルス対策で合計21回 149項目の緊急要望書を提出。 万全な対策の実施を求める!

#### 意見

市議会公明党は、市民相談を通じて頂いた貴重な御意見御要望を集約し、50項目の予算要望、35項目の政策提言を池澤市長に提出。施政方針では要望した多くの施策、事業の実施が示された。今後も、市民ニーズを把握し、市民生活の向上に資する行政サービス、課題の改善案を提案していく。

市長として地域に足を運び現場の声を伺う。この姿勢こそが重要と考える。

市政運営において現場の感覚を大切に次世代への責任ある選択につなげる。

若者がまちづくりへ参加する仕組みを提案してきた。来年度の取組は。

若い世代の方々の継続的な場づくり、機会創出に取り組み、得られた内容を施策に反映していく。

新型コロナウイルス対策について、市議会公明党はこれまで計21回149項目の対策を提案。3回目のワクチン接種に向けては接種券送付の時期、予約体制の見直し、接種体制の継続などを提案してきた。今後の方向性は。

当初の接種スケジュールを前倒しで実施。接種券の分割発送、電話体制拡充、庁舎内窓口での予約支援、予約集中を避けるため、接種券が届き次第予約できる体制で取り組む。

陽性者やご家族を迅速に支援するため、東京都や保健所等と連携した支援を提案した。現状を問う。

本市では、希望する自宅療養者に食料品などを届けるとともに、パルスオキシメーターの貸出しも行う。

「西東京市ゼロカーボンシティ」が宣言された。それに先立ち市議会公明党は、「ゼロカーボンシティの実現に向けた緊急要望」を提出。取組がどのように反映されたか伺う。

宣言文の起草に当たり、子どもの声や思いを反映すること、また、宣言を実効性のあるものにするためのガイドラインを策定。公共施設における再生可能エネルギー由来の電力調達を積極的に進めるとともに、環境ポイント制度や(仮称)環境アワードを創設する。

公明党は18歳、高校3年生までの医療費の無償化実施を先頭に立って取り組んでいる。東京都は、公明党の要望により令和4年度にこの制度の開始に向けた準備経費を盛り込んだ。本市での実施を強く要望する。

東京都が令和4年度当初予算の中で、高校生相当年齢への医療費助成制度の開始に向け準備経費補助を盛り込んだ。今後は東京都の動向に注視し連携を図る。

児童発達支援センター



設置の効果について伺う。

お子さんの発達にご不安を感じる保護者の方が相談でき、お子さんが地域のネットワークの中で切れ目のない適切な支援を受けられる体制を目指す。

公明党の要望により児童クラブにWiFiが整備される。子どものメリツトは大きい。整備の概要は。

全ての児童クラブへのWiFi設置で、放課後や長期の休みに効果がある。

令和4年度、学校におけるヤングケアラーの対応について伺う。

教員研修、児童生徒と教員の面談やアンケートの機会、日常的な関わりの中でヤングケアラーの視点から早期発見に努める。

昨年、全小中学校のトイレの自動水栓化や水飲み場蛇口のレバー式化について一斉改修を要望した。

自動水栓化等は、新型

コロナ感染症対策で重要。令和4年度に市立の小中学校の改修を行う。

公明党は、骨髄移植等の医療行為後の予防接種の再効果が期待できない方への再接種費用について助成制度を要望してきた。

再接種費用の助成を実施し丁寧に対応していく。

認知症施策の推進へ体制強化を求めてきた。

今後は認知症支援推進員や認知症サポーターボランティアの連携を強化し課題解決に取り組む。また業務分担の見直しに取り組み、認知症対策の推進を図る。

障がいのある人とご家族が地域で生活するため、障がい福祉のケースワーカー制導入を提案してきた。

取組と効果を問う。

ケースワーカー制を導入することで、切れ目なく障がいのある方やご家族などに寄り添い、伴走しながら支援やサービスにつなげる体制構築が可能となる。

空き家の利活用を求めた。今後の取組は。

空き家化の予防、空き家となってしまう建物等の有効な利活用が図られるよう、令和4年度中に(仮称)西東京市空き家バンクの創設準備を進める。

市道104号線整備事業に併せて駅前広場環境空間も活用した、にぎわいの創出について提案をしてきた。

駅前全体の特性に合わせた利活用などニーズの把握を行い、活力ある駅前となるよう取組を進める。

第3次総合計画、各種個別計画策定について。

多くの計画が並行して検討に入ることから、庁内

で横断的な検討組織を設置し取組を進めている。また、それぞれの計画策定を進める中で見えてきた課題を共有し、課題解決に向けたプロジェクトチームを編成し横の連携強化を図る。

全ての人がその恩恵を最大限に受けることができる社会の実現こそが行政のデジタル化の目的と考える。本市が目指す方向性、令和4年度の取組を伺う。

業務改革を意識する中で業務の効率化を図り、人的資源を行政サービスの向上につなげ、市民ニーズに合った人に優しいデジタル化を推進する。令和4年度は、地域情報化方針(重点)に位置付けた27の取組を着実に進める。

昨年12月から西東京市公式LINEが始まった。これまで他市の事例を紹介し具体的な機能拡充を求めてきた。今後の方向性は。

先進自治体等の取組を参考にしながら、担当で構成するLINE部会や課長級で構成する検討委員会で機能拡充に向け検討する。

公明党が提案したおみやみ窓口が令和4年度開設される。各窓口を回らなくともよくなり大変にありがたい。概要を伺う。

令和4年8月を目処に、田無庁舎2階に設置。ご遺族の気持ちに寄り添い、対面によるワンストップで行う専用窓口となる。事前予約制とするが臨機応変に対応する。



### 議会 NEWS ①

## 議会でのタブレット端末利用の試行を始めました

議会運営の効率化や活性化と紙資源の節約に取り組むため、令和4年第1回定例会からタブレット端末利用の試行を始めました。全ての議員にタブレット端末が貸与され、「ペーパーレス会議システム」を利用し、現在、一部資料を各議員のタブレット端末で閲覧できます。タブレット端末では資料を見るだけでなく、情報を書き込むことも可能です。紙と同じように使用ができ、今後は紙資料の削減、重複した資料の縮減、携帯性・利便性の向上が見込まれます。また、情報共有の同時性の実現により、会議の活性化、議員活動の充実化、そしてさらなる開かれた議会の活性化の取組を進めていきます。

導入にあたり、本市のDXの実情や、タブレット端末の操作方法などについて研修を行いました。

### 資料閲覧システム操作研修 利用者向け講習会

資料閲覧システムの具体的な使用方法について講習会を行いました。

日程 第1回 令和4年2月22日  
第2回 令和4年3月25日  
場所 田無庁舎議会棟4階及びオンライン

資料閲覧システム操作研修利用者向け講習会

### 西東京市のDX\*

社会や地方議会を取り巻く環境の大きな変化に対応するため、推進されるDXについて、また本市の実情について研修会を行いました。

日程 令和4年2月10日  
場所 田無庁舎議会棟4階及びオンライン  
講師 西東京市情報政策専門員 佐藤 佳弘氏

\*ヤングケアラー 一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども。  
\*DX デジタルトランスフォーメーション。企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズをもとに、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。